

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600746		
法人名	社会福祉法人 新上五島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町青方郷1379番地1		
自己評価作成日	令和2年10月8日	評価結果市町村受理日	令和3年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年 11月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が常に笑顔で過ごせるよう支援しながら、共に生活をしています。日々の外出や、社協や地域の行事への参加等を実施することで、生きがいや楽しみをもって頂けるよう支援しています。今年度はコロナの影響で中止となりましたが、さくら単独の大きな行事に「さくら祭り」と「さくら旅行」があり、家族や地域との交流の場となっています。そのような状況を「毎月の予定」や年2回の「さくら新聞」に掲載し、家族や行政、運営推進会議の会員へ送付、持参し周知をお願いしています。また、御利用者への身体への不安や、職員の精神的負担の軽減のために訪問看護との契約も継続しており、受診や終末期の相談ができる体制を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設当初からの理念である「ささやかな幸せを共に分かち合い、くらす我が家に、らんまんの笑み」を基本に、「笑顔を目指す」をモットーに支援することは、利用者がここに住みたいと思える事業所に繋がると考えている。職員会議では、理念を基に「何をを目指すのか」を話し合い、全職員で日頃の支援を振り返っている。新型コロナウイルスの影響は、地域との交流に出ているものの、家族の面会や運営推進会議は、可能な限り実現しており、事業所の特筆すべき点と言える。利用者が普通の生活を送れるよう職員はできることを増やしており、趣味の編み物の他、洗濯物たたみ、食材の皮むきを手伝うことが楽しみになっている。職員は利用者の最期まで寄り添い、独りで逝くことがないようにと考え支援している。管理者と職員は日々ケアなどについて検討を重ね、書類の整備や支援の質の高さに繋がっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームさくら さくら通り
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員や運営推進会議委員で理念を作り、常に目に入る位置へ掲示し、全員が理念を共有している。	理念の一部である「笑顔を目指す」をモットーに支援することは、利用者がここに住みたいと思える事業所に繋がると考えている。職員会議では、理念を基に「何をを目指すのか」を話し合い、全職員で日頃の支援を振り返っている他、新人職員には入社時に説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くに保育所や民家があり、散歩等で交流している。また、近所の商店を利用し、顔見知りの関係ができています。敬老会等の地域行事への参加や学生との交流、ボランティアの来訪もある。(今年は中止している)	今年度は新型コロナ禍で、地域との交流は難しい状況にある。恒例であったボランティアの受け入れや学生との交流、地域行事への参加も見合わせている。高校生と警察署から訪問があり、振り込め詐欺防止のDVDの寄贈があり、代表して利用者が受け取っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事案内を送付し、家族や知人が来訪して頂く事で認知症の人の理解をして頂いている。また、年に数回は学生向けの研修、地域の方向けの研修等を実施している。(今年は中止している)			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催している運営推進会議では、利用者の状況や活動の報告を行い、意見や助言を頂いている。頂いた助言等はさくら会議で報告し職員全員で共有、サービスに繋げている。	新型コロナ禍の中、2ヶ月に1回広い会場を準備し換気を徹底して開催している。既定の委員に加え、以前入居していた利用者の家族や寺の住職も参加している。家族には毎回案内を送っており、参加を促している。会議から職員の手の届かない部分をOBの家族が手伝うことに繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や毎月の便りの持参等で連絡を取っている。また、待機者の把握や重複の管理、会議の参加等での協力関係も密に行われている。	地域包括支援センターが主催する“チャンネルの輪”にて特別養護老人ホームの会合に職員が出席している。また、グループホーム連絡協議会の介護報酬に関する研修がZOOM会議であったため、夜間の会議に参加するなど、行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や会議等で、身体拘束について勉強を重ねている。また、行動制限等が行われないよう、常に取り組んでいる。玄関は夜間、防犯上施錠しているが、日中は常に開錠している。	平成29年度から2ヶ月に1度、身体拘束適正化委員会を開いている。具体的な事例を基に職員間で議論していることが、議事録から読み取れる。自由に外出する利用者は、職員間で朝夕の引きつぎや引継ぎノートを利用して、利用者に関する情報を共有し、見守っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	2カ月に1度の会議の中で、虐待防止委員会を中心に虐待や拘束についての勉強会を実施している。コロナ前には外部研修に参加し、報告周知も行われていた。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業に関しては、さくら並木の利用者が1名利用されている。成年後見制度については現在利用されている利用者はいない。研修が実施される時には参加できる職員が参加し、研修報告を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、見学から詳しく説明し、疑問点などが残らないよう配慮している。また、改定などは文書にて送付し、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、話せる雰囲気作りを行うよう努力している。玄関には苦情箱を設置し要望等を記入できるようにしている。また、利用者の要望は日々の会話の中からくみ取っている。運営推進会議時には家族の参加があり、意見を頂いている。	利用開始時に、苦情解決体制や苦情箱活用の説明を行っている。職員は、家族や利用者が意見を表しやすい雰囲気を作り、ゆっくり話を聞いている。職員が聞いた家族の提案は、管理者に伝え情報共有している。リビングの飾り物や新聞紙の箱、事業所備品の修理など、家族の提案を活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際、意見や提案を伝える事ができる。夜勤等で参加できない時は、事前に主任へ伝え代弁して頂いている。また、管理者が業務に入らない日には、勤務中でも個別に随時、意見や提案を聞く事ができる。	職員は、さくら会議で意見や提案を表明している。管理者との個別面談に限らず、普段から管理者は職員と話す機会を持ち、意見を言いやすい。職員の提案から業務内容を見直したり、シフト調整を行い勤務表を作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境については、個別に相談したり会議で提案したりしている。勤務では公休や年休の希望等を提出し、個々の状況に応じた勤務を作成して頂いている。また、年2回の健康診断も実施されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は事業所の回覧に置かれ、行きたい研修は希望を出している。島外研修は限られるが、島内研修はなるべく全員が受講できるよう調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の開催する勉強会やネットワークで、同業者と交流する機会が持てている。また毎年実施している視察研修において、同業者の施設を視察し勉強させて頂いている。(今年は中止している)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報を元にニーズの把握に努めている。不穏時は気持ちが落ち着くまで耳を傾け、安心して頂けるよう努力している。事務所にも掲げ、日頃から傾聴することを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、さくら入所前の状況や思い、これからの要望などを、利用者本人や家族から詳しく伝えて貰っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みから契約までに、入所以外に方法はないのか、他サービス利用はできないのか等、本人や家族を含めて話し合いを行い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げ、共に生活できるよう心掛けています。一緒に掃除や洗濯、茶碗洗いや買物へ行ったり、会話をしながら一緒に食事をしたり、普段の生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、現在の様子を伝えたり、家族の方にアドバイスを頂いたりしながら、本人を交えて一緒に考えている。飲み物を飲みながら、家族との会話を楽しまれるよう配慮も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域巡り等で地元を訪問した時には、知人等に連絡を取り、一緒に過ごせるよう努めている。入所前に通っていたデイサービスで馴染みの方と話す機会も作っている。(今年は中止している)月1回の神父様の訪問も継続頂いている。	利用者の生活歴や馴染みに関する情報は、利用開始時に本人や家族に情報提供を受けフェイスシートに記入している。今年は新型コロナ感染予防の観点から、面会や外出制限となったものの、職員は利用者の馴染みの関係を絶たないよう、換気を徹底し、神父様の訪問、家族の面会方法を工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格等を把握し、座る位置を考えたり、一緒にできるレクリエーションを考えたりしている。また、利用者が不快な思いをしたり孤立したりしないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、さくら祭りやさくら旅行、運営推進会議の案内を送付し参加頂いている。また、関係を閉ざさぬよう会うたびに声をかけ話をしたり、さくらに遊びにきて頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での会話や行動、表情の把握を心掛けている。モニタリング表や連絡帳を活用しながら、スタッフ全員で共有し、利用者が訴えた事を実践できるよう努めている。	職員は、利用者の思いを話しやすいよう、生きる意欲に繋がるコミュニケーションや言葉を掛けながら、意向の把握に努めている。看取りの段階の利用者の意向は、表情や様子から検討している。職員は引継ぎ時や業務日誌で情報共有している。また、年1回フェイスシートを見直す時期に、加筆している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人カルテに基本情報を載せ、スタッフが共有できるようにしている。また、話の中で聞いたことを記録するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の中で個々の出来ることをして過ごして頂いている。無理強いせず、本人本位で行えるよう努めている。また、チェック表を活用しバイタルや食事量を把握している。必要な利用者はカロリーや水分量の把握も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、家族からの意向を聞いたり、毎日のモニタリング結果やケアの状況をさくら会議の中で報告、検討し、介護計画を作成している。	入居時に利用者基本情報を作成し、本人の意向を尋ねモニタリングを基に計画の原案を作成している。原案は本人の同意を確認し、1ヶ月ほど支援し、その後、長期6ヶ月、短期3ヶ月の計画を作成している。本人の状況に合わせて、プランを加筆することもある。計画の実施状況を毎日記録し、管理者が評価する仕組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング表、個人カルテ、業務日誌、ヒヤリハット帳などに記入し、スタッフ間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の介護以外に生まれるニーズに対応する為、フリーで動ける日を設けており、美容室に行ったり地元へ出かけたり等、柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や地域で実施される行事（敬老会等）への参加、学生との交流など、利用者が楽しめるよう支援している。（今年度は中止している）		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、現在の状況を細かく報告している。家族同行時には情報を共有し、家族が直接、意向や意見をDrに伝えて頂くこともある。かかりつけ医とは訪問看護契約を結び、小さい事まで相談できる関係が出来ている。	かかりつけ医は上五島病院である。受診は職員が同行しており、定期受診以外は、家族に必ず報告している。また、服薬の変更を含め薬連絡帳に記録している。医師の指示にて家族と病院で合流することもある。週1回訪問看護が訪れ、利用者の健康管理を行っている他、夜勤専門の看護師の職員がおり、夜間急変時の対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が不在の時は、隣接する社協の看護師に相談したり、毎週水曜日に来訪する訪問看護に相談している。訪問看護ノートを活用し、スタッフ間で共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、毎日見舞いに行き（現在制限あり）状況をDrより伺い、HPノートを活用しスタッフ間で共有している。地域連携室とは密に連絡をとり、早期退院を促している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じてカンファレンスを開き、Dr、訪問看護、本人、家族と共に方針を共有し支援に取り組んでいる。終末期には個別に訪問看護契約を結び、安心して過ごせるよう支援している。	事業所は看取り支援を行うことを契約時に本人・家族に説明している。重度化が進むと医師と一緒に家族の意向を確認している。現在、複数の看取り支援を行っており、医師、訪問看護と連携し、職員も一緒に支援している。管理者は24時間オンコールであり、いつでも駆け付けれる体制は職員の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で開催されるAEDの講習に、勤務調整できるスタッフは参加している。（今年度は中止している）また、研修に参加したスタッフは研修報告を行い、共有している。緊急時はマニュアルに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の消防立会いの避難訓練を行い、うち1回は夜間想定での訓練を行っている。利用者や家族、近隣の方も参加可能な時には参加して頂けている。（今年度は制限している）	年2回、消防立会いの避難訓練を予定しており、冬は隣接するデイサービスと合同で夜間想定であり、春は日中想定で全職員参加にて行っている。台風以外の自然災害は想定できないため、訓練は行っていない。ただし、利用者が居室から避難した後の確認方法が不確実であり、豪雨想定での避難訓練も行っていない。	利用者が居室から避難したことが確認できる方法を全職員で検討することが望まれる。また、台風以外にも近年は豪雨災害もあるため、実態に合った想定にて訓練は行うことに期待したい。

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけゆっくり、わかる言葉で話すよう心掛けています。人生の先輩という事を忘れず、利用者の自尊心を傷つけないよう対応している。特に入浴や排泄介助ではプライバシーに配慮している。	理念に込めた“ささやかな幸せ”を根本に、職員は利用者の人格を尊重した言葉遣いに配慮し、接している。職員は即席ロールプレイングを行いながら、優しい言葉遣いに努めている。書類は事務所で管理し、職員の守秘義務の周知徹底を図っている。ただし、写真掲載やテレビ撮影の許可は、その都度口頭で確認するに留まっている。	個人情報保護の観点から、現在口頭確認している内容を、口頭だけでなく文書として作成し同意を得ることが望まれる。写真や映像使用範囲など細目を検討し、書面整備に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えを早く出して貰おうとせず、選択肢を設けたり、考えて頂く時間を作るよう努めている。会話の中で思いを感じ取り、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、個々のペースやその日の状況に応じて対応するようにしている。不穏時には散歩等で気分転換を図り、支援するよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は(HPや行事など)マニキュアをつけたり化粧をしたり、アクセサリーをつけたりしてオシャレに気を配っている。また、毎日同じ服装にならないようスタッフと一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行き、食材を選んで頂いたり(今年度は中止している)お茶を淹れて頂いたり、米とぎや野菜の皮むき、モヤシの根切り、茶碗洗い等、個々に応じた内容と一緒にやっている。	職員が、利用者の嗜好や旬の食材を使って献立を作成している。誕生日にはリクエストメニューを提供している。利用者の嚥下に合わせ盛付け、利用者のペースで落ち着いて食事している。職員も食卓を囲み、楽しい食事風景である。利用者も下準備や片づけを手伝っており、イベント時は仕出しを取って、いつもと違う食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェック表に記入し把握している。個々の状況に応じてカロリー制限、糖質カット、トロミ食やミキサー食、キザミ食の提供を行っている。食事量が少ない時にはゼリーやプリンを補食して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は自分で口腔ケアして頂き、無理な利用者は介助で実施している。歯ブラシ、モアブラシ等を使用し行い、1日の終わりには義歯を外し洗浄剤につけて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを排泄チェック表に記載し、個別に把握することで時間誘導に努めている。また、残存能力を活かしトイレでの排泄が行えるよう支援している。	座位が保てる限り、トイレでの排泄介助を行っている。利用者の体調に応じ、ポータブルトイレの使用も検討している。職員は、排泄支援状況を排泄チェック表に記録し、支援内容の見直しに活用している。会議に限らず、タイミングをみて主任に相談し、その場で検討することもある。リハビリパンツから布パンツになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に根菜や乳製品を取り入れたり、お腹周りの運動を実施したりしている。HPで相談し便剤をしようしている利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員が不足していない日は、毎日入浴できる環境を作っている。利用者に応じて終末期の方はカロリー消費を考え数日おきに入浴したり、便の失敗があった方はそのまま入浴したりされている。	毎日入浴準備し、週2、3回を目安に入浴支援している他、入浴日以外は、清拭で清潔保持している。拒否時は時間や声を変え無理強いしない。着替えを職員と一緒に選んだり、仲良しの利用者と一緒に入浴する等、入浴日が楽しみになるよう工夫している。入浴剤や好みの湯温で寛いで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調や習慣に応じて、横になりたい利用者は居室で休まれたりしている。夜間は空調や採光等に注意し、気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診の都度、HPノートに記載し個人カルテに添付している。服薬変更がある場合は特に留意している。誤薬がないよう日付を入れ、何重にもチェックし服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が好きな方は調理下ごしらえ等、個々の好きな事や得意なことを把握し、取り組めるよう支援している。また、散歩やドライブ等を日々の生活に取り入れ、気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は屋外に出て、行きたいところに行けるよう支援している。年1回の家族旅行や教会巡り、地元巡り等、家族に協力して頂き実施している。(今年度は中止している)	従来は、地元めぐりや季節ごとの外出を楽しんでいたが、今年は新型コロナ感染予防の観点から外出制限となっている。その中でも、安全に配慮しながら外出を支援しており、敷地周辺の散歩や天気のいい日はドライブに出掛け、車中から景色を眺めたり、誰もいない時には車を降り散策するなど、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は家族が管理されているが、希望者は預り金の中でスタッフと買い物に出かけたりしている。また、年1回は買物ツアーとして、自分で選び、支払いされて購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば利用者自ら電話することもある。入所時は携帯電話を持参している利用者もいた。暑中見舞いや年賀状は毎年書かれており、書けない利用者も名前だけ書いたりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせて雰囲気作りに努めている。室温や採光に配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。壁や玄関の飾り等、毎月スタッフが変更したり、利用者で作ったりして季節感のある空間になっている。	1階、2階それぞれに季節感ある装飾を施し、家庭的で温かい雰囲気となっている。テーブルやソファなど利用者は思い思いに寛いでおり、職員と世間話に花を咲かせている様子が窺える。リビングのテレビや職員の会話の音量は適切であり、利用者の笑顔が見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日によっては独りになりたい利用者が居室に入られることもあるが、リビングで過ごされる利用者が多い。テレビを見たり家事手伝いをされていたり、おしゃべりをしたり、それぞれ自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やマリア像を置かれたり、テレビやソファを置いたり等、使い慣れたものや馴染みのものを持ち込んで頂いている。衣替え等、家族が来られ一緒に行っている利用者もいる。	利用者が、事業所での暮らしに馴染みやすいよう持ち込みは自由である。居室には、個人のテレビやソファがある他、マリア像や家族写真、季節に合った衣服を揃えている様子が窺える。換気や清掃は職員が行い、快適な環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりを設置し、できるだけ自立歩行をして頂いている。廊下には妨げるものを置かないよう配慮している。自分の居室が分かるよう表札を作ったり、トイレの場所を知らせる貼り紙を貼ったり工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600746		
法人名	社会福祉法人 新上五島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町青方郷1379番地1		
自己評価作成日	令和2年10月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が常に笑顔で過ごせるよう支援しながら、共に生活をしています。日々の外出や、社協や地域の行事への参加等を実施することで、生きがいや楽しみをもって頂けるよう支援しています。今年度はコロナの影響で中止となりましたが、さくら単独の大きな行事に「さくら祭り」と「さくら旅行」があり、家族や地域との交流の場となっています。そのような状況を「毎月の予定」や年2回の「さくら新聞」に掲載し、家族や行政、運営推進会議の会員へ送付、持参し周知をお願いしています。また、御利用者への身体への不安や、職員の精神的負担の軽減のために訪問看護との契約も継続しており、受診や終末期の相談ができる体制を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナの影響もあり、地域を交えてという部分では難しい所だと思うが、理念を会議で振り返り実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加して頂けるように案内や呼びかけをしたり、地域の行事にもできるだけ参加している。コロナ禍の今は考えなければいけないが		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に一度の会議や、以前自ら買い物に行っていたご利用者に関しては店の人に事情を話して支援をお願いしていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には行政や民生委員や元ご利用者の家族等ご利用者にも参加してもらい、意見を聞いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修や会議等で一緒になった時、実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	二か月に一度会議や、研修に行った職員から資料を見せてもらったり口頭で聞いている。職員同士注意しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	二か月に一度の会議の時に疑問に感じたら、その都度質問し確認し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当の職員は島外に研修に行き、制度について学び、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時利用者や家族等に十分な説明を行い、疑問点がないかその都度尋ねて理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月に一度の運営推進会議で家族はもちろんご利用者や地域の方にも参加してもらい意見や要望を聞いて反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や相談はするようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	小さな事でも話を聞いて相談に乗ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	既存の職員や新人職員の考え方、動き方の差ができてしまっているため、それぞれに応じた研修に島内島外に関わらず行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政や病院や施設が主催する研修に行く機会を設け、サービスの質の向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者と話す時は笑顔を忘れずに試がけている。情報共有が不足気味ではないかと思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こちらの質問もだが家族の話しに重点を置き傾聴しながら、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	共通の話題を探し、話しを広げようと試みている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ができる事を探しつつ、一緒にすごしている。手を貸してしまう場合もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	間に入って話してみたりしている。日々の様子を話せる範囲で話し家族の要望等にも答えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の一つとして墓参りや地元巡りをしたり、地域の行事にも参加している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように居室のご利用者にも常に気配り見守りを行い、リビングではみんなで活動できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職場以外の場所であってもこちらからあいさつして、声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様子を見たり、状態によって行動するようにしている。やりたい事や希望を聞き出せるよう話をしながら努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	地元の行事に参加したり、自宅で使用していた物を使い、快適に生活してもらえるようにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調を見て、その時にできる事を一緒にやり		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝、夕の引継ぎや会議の場などで、話し合いの場を作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の発した言葉でわかりやすく記録に残し、特変あった時は赤で記入し連絡帳や業務日誌に記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小さな事でもひろって、大事な事は、家族に相談報告を行いサービス提供につなげる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院や馴染みの薬局を家族に聞いて把握し、一緒に買物に行ったりと豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1, 2カ月に1回は定期受診し、それぞれの担当医に相談できるようにしている。週に1回水曜日に契約している訪問看護の業務相談を利用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調で気になる事や傷の手当等週1回訪問看護に相談している。ディサービスに常勤している看護師にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、家族、主任でカンファレンスを行い入院中や退院について話し合い、入院中面会できる時は面会に行ったり、様子を伺ったり看護師に状態を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院や家族の意見や意思を聞いて、ターミナルケア等についてその都度話し合いをし、同意書をもらいみんなが同じケアをできるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防等や緊急時の対応やAEDの使用法の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	訓練の時は参加できるご利用者や家族には、参加してもらい意識してもらう。また、近隣の方や民生委員にも声をかけ参加をお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレのカーテンを閉めている。更衣の時は可能な限り、ドアを閉めている。一人一人にあった声かけの仕方を意識し言葉使いに気を使っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	テレビのチャンネルを変えてほしいと訴えある時はそれに応じて変えている。部屋に行きたいと訴えある時は居室に誘導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で動いている時もある。朝からご利用者の体調を見て、希望がある時は、したい事を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるご利用者には、着替えの服を選んでもらっている。散髪したいという希望があれば、外出したり元職員に切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いて買物へ行き、食事の下ごしらえの準備手伝い等を一緒に行っている。食後の食器拭きなど手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院で決められているご利用者には状態に応じた食事の量や水分を提供し、表を用いて記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ないご利用者にはモアブラシを使い必ず職員が介助して行い、一人で出来るご利用者も見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を時間でする他個人に合った誘導を心掛けている。声掛けにより失敗を防ぐよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のないご利用者には起床時ヤクルトを提供し腸の動きを良くし、自然と排便コントロールを出来るようになっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人のご利用者の体調を見て、入浴前に声掛けをし、話をしながらゆっくりと入って頂けるよう配慮している。一人で入りたい人は、一人で入ってもらう。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の温度によって空調に気を使っている。暗さや音に気を使っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日連絡帳を見て、確認したり、夜勤など時間がある時に変わった所など記録見直している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気のいい日はドライブに出掛けたり、食事で食べたい物を聞いて、提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者や家族の希望がある時は、外出外泊を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にて金銭管理を行い、希望ある時は必要に応じて行っている。行事の一つである買い物ツアーや旅行の時にお金を渡して買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との手紙のやり取りや電話での話しが出来る方には電話をとりついで会話をしてもらう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを変えたり、外の景色を眺めたり、危ない物は目につく所には置かないように気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はなるべくリビングで歌や体操家事手伝いをみんなでできるように分担し過ごしてもらっている。午後から居室で休んでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持ってこられた物や家で使用していた物を使用したり買い物で自分で買った物などを使っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や風呂場の場所をわかりやすく書いて矢印を書いたり工夫している。それも難しい時は付き添ったりと対応している。通路に障害物がないか気を使っている。		